

正誤表（現況分析（教育））

69：香川大学

No.	現況分析単位 (学部・研究科等)	頁数	誤	正	修正事由
01	01_教育学部	P.4	・学校教育教員養成課程では、教職概論（1年次）、教職実践プレ演習（2年次）、(略)	・学校教育教員養成課程では、教職概論（1年次）、 <u>教育</u> 実践プレ演習（2年次）、(略)	誤字があったため
02	01_教育学部	P.7	2017年度には新たに、大学から能動的学修支援事業の認可を受け(略)	2017年度には新たに、大学から能動的学修支援事業の <u>助成</u> を受け(略)	記載に誤りがあったため
03	01_教育学部	P.11	(略)内5名が香川大学教育学部に入学した。	(略)内 <u>9</u> 名が香川大学教育学部に入学した。	数値に誤りがあったため
04	01_教育学部	P.12	2016年5月1日現在では、教員の41.8%が教職経験者（校長経験者は除く）となっていたが、2018年5月1日現在では、その割合は45.8%にまで増加している。	2016年5月1日現在では、教員の <u>41.7%</u> が教職経験者（校長経験者 <u>含む</u> ）となっていたが、 <u>2019</u> 年5月1日現在では、その割合は <u>45.7%</u> にまで増加している。	表I-C-1（本文 p.12～p.13）と本文に齟齬が生じたため
05	01_教育学部	P.14	また、留学等が関係する「標準修業年数×1.5」年内卒業率は、別添資料6901-ii1-1のように、97%を超える。	また、留学等が関係する「標準修業年数×1.5」年内卒業率は、別添資料6901-ii1- <u>2</u> のように、97%を超える。	資料番号に誤りがあったため

正誤表（現況分析（教育））

06	02_教育学研究科	p.15	また、「標準修業年限×1.5」年内修了率は97%を超える。(略)	また、「標準修業年限×1.5」年内修了率は <u>修士課程では88%以上を、専門職学位課程では100%を維持している。</u>	別添資料の再提出に伴い数値に齟齬が生じたため																
07	03_法学部	p.6	3年次生対象のインターンシップ参加者数 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>年度</td> <td>(略)</td> <td>2017</td> <td>(略)</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td></td> <td>41</td> <td></td> </tr> </table>	年度	(略)	2017	(略)	参加者数		41		3年次生対象のインターンシップ参加者数 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>年度</td> <td>(略)</td> <td>2017</td> <td>(略)</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td></td> <td><u>40</u></td> <td></td> </tr> </table>	年度	(略)	2017	(略)	参加者数		<u>40</u>		表と別添資料 6903-i4-5 の数値に齟齬が生じたため
年度	(略)	2017	(略)																		
参加者数		41																			
年度	(略)	2017	(略)																		
参加者数		<u>40</u>																			
08	05_経済学部	p.2	(特徴) 経済学の特徴は、(略)	(特徴) 経済学 <u>部</u> の特徴は、(略)	脱字があったため																
09	07_医学部	p.11	(略) 各留学生に医学部学生を「ボディ」として配置する等、密接な学生間交流を促進し、共に学び合う環境を整えている(別添資料 6907-i8-2)。[A.1]	(略) 各留学生に医学部学生を「ボディ」として配置する等、密接な学生間交流を促進し、共に学び合う環境を整えている(別添資料 6907-i <u>A</u> -2)。[A.1]	資料番号に誤りがあったため																
10	07_医学部	p.12	(略) 特に2017年度に(株)森川ゲージ製作所の篤志による「森川ゲージ国際交流基金」を設立して留学等の支援事業を行っている(別添資料 6907-i8-3~4)。[A.0]	(略) 特に2017年度に(株)森川ゲージ製作所の篤志による「森川ゲージ国際交流基金」を設立して留学等の支援事業を行っている(別添資料 6907-i <u>A</u> -3~4)。[A.0]	資料番号に誤りがあったため																

正誤表（現況分析（教育））

11	08_医学系研究科	p.9	（略）同センターの医師を本学非常勤講師とし、特任教授あるいは特任准教授の称号を付与し、（略）	（略）同センターの医師を本学非常勤講師とし、 <u>客員</u> 教授あるいは <u>客員</u> 准教授の称号を付与し、（略）	誤記があったため
12	08_医学系研究科	p.11	一方、標準修業年限 1.5 倍での修了率は、看護学専攻で、2016 年度 100%、2017 年度 80.0%、2018 年度 45.5%、（略）	一方、標準修業年限 1.5 倍での修了率は、看護学専攻で、2016 年度 100%、2017 年度 <u>100.0%</u> 、2018 年度 <u>75.0%</u> 、（略）	別添資料の再提出に伴い数値に齟齬が生じたため。
13	09_創造工学部	p.10	（略）「図書館利用講習：図書館を上手に利用する」（本学図書館中央館及び創造工学部との連携）についての（略）	（略）「図書館利用講習：図書館を上手に利用する」（本学図書館中央館及び創造工学部 <u>図書館分館</u> との連携）についての（略）	誤記があったため
14	10_工学研究科	p.7	例えば、信頼性情報システム専攻では、（略）	例えば、信頼性情報システム <u>工学</u> 専攻では、（略）	脱字があったため
15	10_工学研究科	p.7	さらに、信頼性情報システム専攻、（略）	さらに、信頼性情報システム <u>工学</u> 専攻、（略）	脱字があったため